

に収められた物語は空間的な広がりの中で頗る貧しいと言わなくてはならない。読み手に空間を意識させるもので頻繁に現れるのは、登場人物の場所の移動であるが、登場人物の行動は物語の時間の形成と密接に結びつくものであるため、より強く感受されるのは、空間的な広がりではなく、むしろ時間の経過の方である。

即ち、空間の把握は時間の把握に従属しているのである。シモンによる物語における、時間把握の空間把握に対する圧倒的優位は、アウエルバッハが『ミメーシス』冒頭に於いて創世記をその例にとって明らかにしたように、享受者の信仰を前提にして書かれた宗教文学の特徴と考えることができる。

## 「開音節の法則」の一般化に関する考察

原 求 作

ロシア語の形成期において強い拘束力を持った法則のひとつに「開音節の法則」がある。これは、「Ѣ, ѣ の脱落以前は、単語はすべて開音節（母音で終わる音節）のみを持つものでなければならなかった」というものである。

この法則の力によって、ロシア語の中に多くの不規則変化が生じてくる。ポルノグラシエの問題、鼻母音の問題、など、ロシア語史上の重大な問題の中にも、この法則との関わりの中で考えなければならないものが数多い。

「開音節の法則」については、ロシア語史の本の中に述べられていない、ということはないし、多くの学者によって詳細な研究がなされている。ただし、その一般化の試みは、必ずしも十分におこなわれているとはいえない。

たとえば golova (голова) という語は、(go-lo-va) と音節が切れる。すべての音節が母音で終わっているから、開音節の法則に抵触するところはない。一方、znakū (знакъ) という単語は zna-kū (зна-къ)

のように音節が切れる。ŭ (ѣ) は古く母音であるから、これも「開音節の法則」に抵触のするところのない単語だが、ここで z と n あいだに音節の切れ目が存在しない、ということを説明する積極的な理由をみつけるのはむずかしい。この問題に対する解答は、一般に子音のソノリティの問題との関わりの中で示されることが多いが、「どのような子音連続が音節の切れ目を形作り、どのような子音連続が音節の切れ目を形作らないか」という問いに対する明確な解答が出されているわけではない。

発表者は各種の著書の記述を参考にしながら、コンピュータも利用してその不備を補い「Ѣ, ѣ の脱落以前に存在することが可能であった子音連続」がいかなるものであるかを考えてみた。非常に広い範囲で観察される子音連続と、ごく限られた環境の中でしか観察することのできない子音連続があるので、2つのクラスに分けて分析の結果を示してみる（限られた環境でしかあらわれない子音連続について、その環境を指摘することは紙数の都合上できない。また

3つ以上の子音が連続するケースについては、現在検討中なので省略する)が、その際に注意しておかなくてはならないことがいくつかある。

① 以下の分析は「**ѣ, ѥ**の脱落」以前のロシア語のみにあてはまるものである。「**ѣ, ѥ**の脱落」がおこると、ロシア語の音節構造は根本的に変化する。

② ここで対象にするのは、古代教会スラヴ語と古代ロシア語の両者である。両者の音韻構造には若干の差異があるが、「開音節の法則」に関わる部分のみをいうと、ごく一部を除いて大差はない(そのわずかな相違についてはここでは触れない)。

③ 現代ロシア語の子音の硬軟と、古語の子音の硬軟のあいだには、別の言語間の違いのような違いがある。その詳細に触れることは紙数の関係上できないが、一番重要なのは「2つの子音が連続した時、後続の子音が口蓋化して軟子音になれば先行の子音も口蓋化して軟子音になる」

という現代ロシア語の常識は、「開音節の法則」が問題になるような時期(より正確に言えば半軟子音の軟子音化がおこる以前)におけるロシア語では通用しなくなる、ということである。一般に史的音韻論のレベルでは、子音が口蓋化すると子音の性質そのものが変化するの、この点は現代ロシア語とまったく違う。例外は *l, r, n* の3つだけである。

広範囲に認められる子音連続

*sp, st, sk, sv, sm, sn, sl, sr*  
*zb, zd, zr, zv, zm, zn, zl, zr*  
*pl, pr, tv, tr, kv, kn, kl, kr*  
*bl, br, dv, dr, gv, gn, gl, gr*  
*chv, chn, chl, chr, vl, vr*  
*ml, mr, nr*

限定された環境で認められる子音連続

*sč, sc, sn', sl' šl, šl'*  
*zn', zl', žn, šn', žl, žl', žr*  
*pn, pl', tl, tr', kl', bl', br'*  
*dm, dl', dr', gd, gd, gr' čl*  
*čr, c'v, z'v, s'v, vl', ml'*

## 「待つ」タイプ、「信じる」タイプの動詞

福 安 佳 子

0. 日本語表現において「を」という助詞をとる動詞で、ロシア語におきかえると前置詞を伴わない生格、与格で補語が表示されるものがある。*ждать поезда. верю мужу.* 前者を「待つ」タイプ、後者を「信じる」タイプの動詞として、その特徴を

「補語の見え方」の観点から考察した。

### 1. 「待つ」タイプの動詞

動詞 20000 の中で、生格のみを要求する動詞は51, 対格または生格を要求する動詞は408 数えられたが、このタイプの動詞は後者に属し、中でも生格要求の割合の大き